

## 全国精神保健福祉会 2024 年度事業計画

はじめに

2022 年 8 月の国連障害者権利委員会の日本審査以降、様々な機関や団体から家族・家族会の意見を求められることが更に増えてきています。全国各地の家族会にも、今まで以上に、様々な機関や団体からの働きかけがあるのではないのでしょうか。このことを歓迎すべきことと考へつつ、だからこそ、私たちの組織を盤石なものにしていく必要があります。

精神障害者家族会は、この国の精神保健医療福祉を前進させていくために、家族の体験を基にした『声』を届けていくという重要な役割があります。そのためには、様々な機会を通してみんなねっと精神保健医療福祉への提言を活用し、家族の『声』を届け続けることが必要です。そして、その活動状況や検討すべき課題などをみんなねっと本部までお知らせいただくなど、全国の家族会とのつながり、連携を意識した活動を継続していきたいと考えます。

そのためには、みんなねっと提言の実現に向けた動きをより具体化していく方向で各委員会の編成を見直し、より活発な取り組みを進めていきます。その一方で、賛助会員の減少傾向が止まらないなど、組織の継続が喫緊の課題となって以降、すでに数年が経過しています。精神障害者家族会の全国組織として、責任ある取組を継続しながらも、継続のための組織運営のあり方を再検討することにも力を入れて取り組みます。

このような方向で進めるために、以下の計画を提示いたします。

### 1 本事業計画の趣旨

- ・精神障がい者と家族の願い実現のために「精神保健医療福祉へのみんなねっとからの提言（略称：みんなねっと提言）」を指針に、国連障害者権利条約（総括所見）も踏まえ、精神保健医療福祉改革のために各方面に働きかけていく
- ・リアルな交流や都道府県連合会への対応の推進と、オンラインシステムの有効利用に重点を置いた活動の開発をすすめる。
- ・多様な立場の家族との連帯と活動の連携・充実および会員拡大

### 【2024 年度重点課題】

- ・精神保健医療福祉諸政策の改革を広く呼びかけより多くの個人団体と連帯して訴える
- ・[みんなねっと提言]の実現に向け法人内組織の見直しとその部門等の設置をしていく
- ・オンライン単会の検討を含め、オンラインシステムの構築と積極的な活用継続
- ・都道府県連合会への訪問（16カ所：8ブロック各2県連）の継続実施
- ・アーカイブ構想の具体化し、家族と障がい者本人の体験的知識の蓄積につなげる。

## 2 基本構想（ビジョン）

- 1) 家族本人の願い・思いである「みんなねっと提言」を全正会員で実現を目指す
- 2) 法人運営の安定した活動を維持するため、組織体制の再編と正会員組織の継続と活性化
- 3) みんなねっとの存在意義を示すため、家族（会）の置かれている実態把握とともに、体験的知識の蓄積体制を整える

### 2-1) 家族本人の願い・思いである「みんなねっと提言」を全正会員が広く告知し、その実現を目指す

#### ①課題別要求のとりくみ

- ・「みんなねっと精神保健医療福祉への提言」の各県連での活用と活動展開  
（単会での討議活用のほか議員や専門職にも理解いただくための普及活動の推進など）
- ・障害者政策への要望反映
- ・関係当局開催の会議・審議会への参画のための人材確保と情報の集約と発信
- ・精神障害者への公共交通運賃の割引制度の実現（実施私鉄大手への制約解除の要請）
- ・重度障害者医療費助成制度の適用推進（2級までの拡大を）
- ・教育課題は義務教育でのカリキュラム化と高校での授業充実のための協力と働きかけ

#### ②調査研究事業

- ・精神障害者と家族の生活実態と意識調査～全国家族ニーズ調査【日本財団助成事業申請】
  - a.精神障害者とその家族がおかれた状況の継続的变化を調査し、現行の制度や障害福祉サービス等についての周知や利用状況、課題等について明らかにする
  - b.本調査結果を分析することで、障害者権利条約日本審査（勧告）も踏まえた今後のよりよい精神保健福祉および医療等に関する施策推進に向け、具体的な提言を発信する
- ・都道府県連合会の統一データや体験的知的の蓄積のための情報収集・保存・保管とデータの集積の検討。  
（アーカイブ実態調査を参考に資料の選定、地域精神保健福祉機構からの資料移管など含）

#### ③ピアサポート事業（家族会活動の育成強化）

- ・都道府県連合会支援（みんなねっと事務局より派遣）【淑徳大学伊藤千尋先生科研費】
- ・家族学習会の周知拡大、アドバイザー、担当者の養成：【キリン福祉財団、ヤマト福祉財団助成事業】
- ・地域家族会による「家族による家族学習会」等のオンライン支援、およびブロック圏域での実施方針の再確認と推進
- ・電話等相談の実施
- ・WEB 会員向けコンテンツの開発と実施（オンライン単会の検討、オンライン交流会）

#### ④研修事業

- ・みんなねっとフォーラム
- ・ブロック研修会、全国大会（助成金の確保）

### 2-2) 法人運営の安定した活動を維持するため、正会員の組織活性化

- ①法人の持続運営のための全組織的な会員拡大
- ②ブロック担当理事を通じた都道府県連合会の集約と交流（WEB 会議の積極的活用）
- ③都道府県連合会支援（山口県連再建支援含むみんなねっと事務局派遣）

【淑徳大学伊藤千尋先生科研費】（再掲）

### 2-3) 多様な家族・市民にとって、みんなねっとの存在意義を示すための体験的知識の蓄積体制を整える

#### ①広報啓発活動

- ・月刊みんなねっと誌（電子版含）の発行
- ・編集委員会体制の強化（委員補充・交代）
- ・メルマガ・SNS、ホームページ、みんなねっとサロンなど多面的展開
- ・みんなねっとブックレット新刊企画・監修・発行のための業者との再協議
- ・マスコミなど広報媒体への発信

#### ②情報アーカイブの活用運用の開始

- ・各種資料等の蓄積を行うため、調査研究事業で保存・保管とデータの蓄積。  
情報アーカイブの開設に向け、調査結果を踏まえながら各事業の材料資料として活用・運用の在り方を定める。（情報ライブラリーとの連携・融合も含め検討）

#### ③他団体等との連携

- ・日本精神科病院協会との意見交換の定期開催、精神科診療所協会との意見交換の実現
- ・日本障害者フォーラム（JDF）を通じての障害者権利条約日本勧告に係る国際的な視点からの協働
- ・関係諸団体などとの積極的な連携と共催事業の検討・実施

#### ④倫理審査会等の部門体制の検討

- ・NCNP への倫理審査委員の選出と他の倫理審査会に向けての人材養成

## 3 組織と事業内容

### 3-1) 機関組織

- |   |    |          |       |   |
|---|----|----------|-------|---|
| 1 | 総  | 会        | 定例年1回 | <u>6月7日(金)</u>  |
| 2 | 理  | 事        | 会     | 定例年4回<br>(必要に応じ懇談会開催)<br>5月29日(水), <u>9月20日(金)</u> , 12月18日(水), <u>3月14日(金)</u> |
| 3 | 代表 | 理事会(打合せ) | 月2回以上 |   |

#### 4 法人内監査 5月中旬

##### 3-2) 各委員会等 (暫定)

※2024年度総会で役員改選のため、総会にて最終確定。

委員会	座長 (* 現任)
みんなねっと提言実現委員会 ・JR など交通運賃割引推進 P T ・医療費助成推進 P T	統括委員長：岡田理事長 (暫定) ・新銀理事* ・木全顧問 (暫定)
月刊みんなねっと編集委員会	赤池副理事長*
中期計画検討委員会	代表理事会 (暫定)
当事者・家族参加型の倫理委員会	夏莉理事*
家族学習会企画運営委員会	飯塚壽美*

・「みんなねっとフォーラム」「調査研究」は事務局にて対応検討する

##### 3-3) 行政当局・公共団体等の役割受任 (現行分)

当会の目的を達成するためにも、行政当局等への参加と、関係機関・団体への協力を推進する (下記は現時点主な受任を示す \*印は岡田理事長 記載なしは小幡事務局長)

- ① 内閣府障害者政策委員会\*
- ② 厚生労働省 社会保障審議会障害者部会\*
- ③ 厚生労働省 労働政策審議会障害者雇用分科会 (新銀理事)
- ④ 国土交通省 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準に関するフォローアップ会議
- ⑤ 国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
- ⑥ 国土交通省 車椅子利用者用駐車施設等の適正利用に関する指針 (ガイドライン) 作成に係る意見交換会
- ⑦ 消費者庁 高齢障害者・障がい消費者見守りネットワーク連絡協議会
- ⑧ 全社協地域福祉部地域福祉権利擁護に関する検討委員会 (赤池副理事長)
- ⑨ 中央障害者社会参加推進協議会 (赤池副理事長)
- ⑩ 独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター  
障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会
- ⑪ 独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構全国障害者技能競技大会競技委員会
- ⑫ 独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構評議員 (赤池副理事長)
- ⑬ 日本障害者フォーラム (JDF) : 代表者会\*
- ⑭ 日本障害者フォーラム (JDF) : 幹事会・条約推進委員会
- ⑮ 自由民主党ユニバーサル社会推進議員連盟\*
- ⑯ 自由民主党政務調査会障害児者問題調査会\*

- ⑰ 公明党障がい者福祉委員会\*
- ⑱ 国際障害者交流センター運営協議会（新銀理事予定）
- ⑲ 立命館大学医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的な分析とアーカイブズ構築
- ⑳ メディア・ガイドライン策定普及プロジェクト

その他 随時

#### 4 法人事業（当会定款に定める事業）\*複数の事業にまたがるものも便宜的区分した

##### 1 精神保健福祉の向上に資するための社会啓発・広報事業

- ・月刊みんなねっと、メルマガ発行など
- ・コミュニティーサイト（みんなねっとサロン）の運営
- ・みんなねっとブックレットの監修・発行

##### 2 精神障がい者とその家族に対する支援事業（ピアサポート）

- ・電話相談事業 毎週水曜日 10～15 時
- ・みんなねっとサロンと連動した情報提供
- ・家族相談員養成 e ラーニングの普及
- ・オンライン交流会の開催
- ・家族による家族学習会の開催
- ・家族学習会セミナーの開催（プログラムの普及についての研修会）

##### 【ヤマト福祉財団助成事業】

- ・家族学習会担当者およびアドバイザーの養成（プログラム実施および質を担保する仕組み）
- ・アドバイザーの派遣
- ・家族学習会企画委員会の開催

##### 【淑徳大学科研費精神障害者家族会支援に関する基礎研究—家族会の活性化に向けて—】

- ・家族ピア活動支援事業  
昨年引き続き必要な県に訪問し、状況把握、交流会の開催をおこなう  
家族会活動音計測と新規家族会員の増加
- ・訪問カ所数：16 か所（全国 8 ブロックのうち、各 1～2 県連）

##### 3 精神障がい者の社会参加を推進するための調査・研究事業

- ・精神障害者家族の全国実態調査
- ・JST-RISTEX 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 \_ (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム「医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的な分析とアーカイブズ構築」（研究代表者：後藤基行）への患者・市民アドバイザーリーボード委員派遣（小幡）

##### 4 家族会活動の育成強化及び当事者活動の支援を図る事業

- ・全国大会・ブロック研修会（主催各都道府県連合会 共催全国精神保健福祉会連合会）  
i 北海道・東北（兼全国大会）10/12、

- ii 北信越、 iii 関東、 iv 甲州・東海、 v 近畿、 vi 中国、 vii 四国、 viii 九州・沖縄
- ・当事者団体のとりくみへの積極的な参加と障がい当事者性を求められる受任案件等に関する積極的な当事者との連携
- ・オンライン家族会活動（オンライン単会など）の検討
- 5 関係機関・団体との連絡調整に関する事業
  - ・行政当局・公共団体等の役割受任
  - ・みんなねっとフォーラム
- 6 その他、当法人の目的を達成するために必要な事業
  - ・諸要求実現に向けたとりくみとそのための組織再編
  - ・全国大会「第 16 回全国精神保健福祉家族大会兼北海道・東北ブロック研修会（北海道）の開催
    - ・アーカイブ構想の実現
    - ・山口県の組織再建支援
    - ・家族会全国組織誕生 60 周年記念企画の検討

組織図

公益社団法人全国精神保健福祉社会連合会組織図(2024年度)

